

令和3年度 共同研究報告書

研究区分		一般共同研究		
研究課題名		マウス COVID-19 感染モデルへの EB ウイルス感染の影響の解析		
新規・継続の別		新規		
研究代表者	所属	島根大学 医学部微生物学教室	40 歳 以下○	35 歳 以下○
	職名・氏名	教授・吉山 裕規		
研究分担者 (適宜行を追加し て下さい)	所属		/	/
	職名・氏名			
	所属		/	/
	職名・氏名			
受け入れ教員	職名・氏名	分子神経免疫学分野 教授・村上 正晃		
概要 (100～150 字程度)		<p>現在、我が国を含め多くの国々で SARS-CoV2 の感染拡大が続いている。SARS-CoV2 感染症である COVID-19 の重症化患者と類似の疾患モデルは未だ存在しない。COVID-19 患者の重症化の分子機構、予防法、治療法を見出すことができる疾患モデルの構築を目的として、F759 マウスを用いた新たな COVID-19 疾患モデルマウスの作製に取り組んだ。</p>		
研究目的 (300 字程度)		<p>現在、我が国を含め多くの国々で SARS-CoV2 の感染拡大が続いている。SARS-CoV2 感染症である COVID-19 の重症化患者と類似の疾患モデルは未だ存在しない。本共同研究では、村上博士が作出した COVID-19 患者の重症化の分子機構、予防法、治療法を見出すことができる疾患モデルを共同で最適化し、解析することを目的とする。そのために、島根大学にはない P3 マウス飼育室にて、村上博士の持つ炎症が生じやすい F759 マウスを用いた新たな COVID-19 疾患モデルマウスを用いて EB ウイルス感染の病態への影響の解析を実施する。</p>		
研究内容・成果 (1000 字程度・Web 会議の回数 も記載)		<p>共同研究先の村上博士が主催する分子神経免疫学分野は、非免疫細胞による炎症誘導機構である IL-6 アンプを 2008 年に世界に先駆けて報告し、2020 年には本機構が COVID-19 増悪化に関連している可能性を報告している。</p> <p>本共同研究では、村上博士が作出した COVID-19 患者の重症化の分子機構、予防法、治療法を見出すことができる疾患モデルを共同で最適化し、解析を実施中である。さらに EB ウイルス感染が病態にどのように影響するのかに関しても更なる研究を進めているところである。</p> <p>上記研究の打ち合わせの為、Web 会議を年 2 回程度実施した。</p>		

成果	<b>【学会報告】</b> 参加者名、講演タイトル、学会名、開催場所、開催日時入力のこと
	<b>【論文発表】</b> 著者、論文名、掲載誌名、号・年・ページ等、IF 入力のこと
	<b>【新聞報道】</b>